



Regional Innovation Research Center

Graduate School of Economics and Management
Tohoku University
2012

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター

地域のイノベーション能力の向上による 産業振興・経済発展を目指して

地域イノベーション研究センター（以下、センター）は、
経済学研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことによって、
地域のイノベーション能力の向上を図り、
地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、
実施および調整を行うことを目的とします。
また、センターは本学および地域の企業、自治体、NPO 等の
実務家たちと交流する場を提供することによって、
地域の現実について強い関心と理解をもち
地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材を育成します。



地域イノベーション研究センター

Regional Innovation Research Center

事業内容

- 地域イノベーションに関する研究の推進
- 地域イノベーションに関する教育の推進
- 地域イノベーションを牽引する指導者的人材(地域プロデューサー)の育成
- 地域イノベーションに関する情報交流の推進
- 委託研究、寄附講座、共同研究の受入



センター長

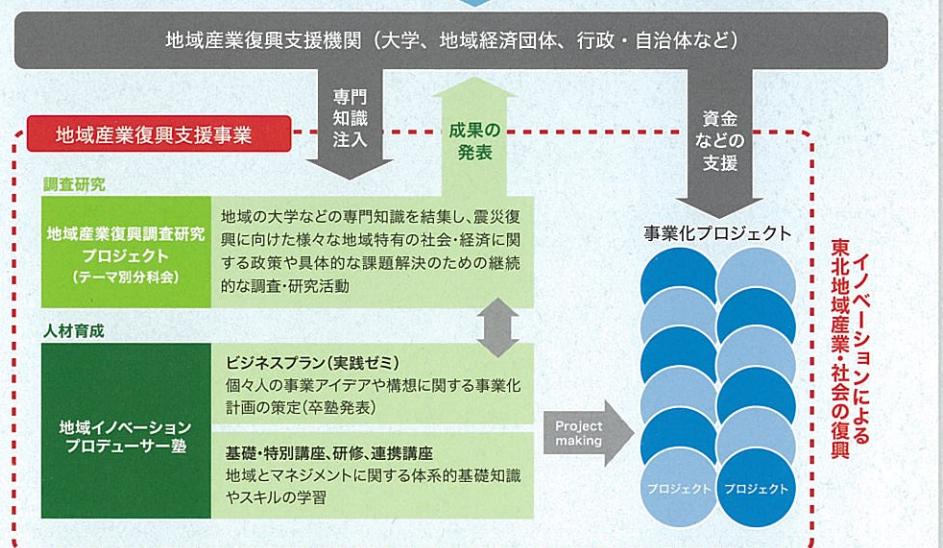
藤本 雅彦 経済学研究科教授

東日本大震災による甚大なダメージを乗り越えて、いかに東北地域の活力を復興させ、持続可能な成長を図っていくかが大きな課題となっております。地域イノベーション研究センターの使命は、こうした地域の課題に応え、イノベーションの実現を通して地域力の持続的向上を推進していくことにあります。地域イノベーションは大学だけの力では実現できません。地域に関わりをもつ企業、政府、自治体、非営利組織、それに他の大学や研究教育機関が、地域イノベーションの実現に向けて共通の目的を設定し、互いの個性を生かしつつ協力し合うことが不可欠です。当センターは、これまでの成果と経験を基盤として、地域活性化のプロデューサーとしての役割を果たしていきたいと考えております。

2012年度より地域産業復興支援事業を行います

東北大学大学院経済学研究科（地域イノベーション研究センター&震災復興研究センター）

震災復興の中長期的な視点からの支援を目的として、東北地域の産業復興に向けた地域産業復興のグランドデザインを様々な学問的視点からの知見を総動員して取りまとめ、更に、継続的にフィージビリティスタディを行い被災地からの政策提言や情報発信をするとともに、地域企業の幹部や次世代経営者を対象とした、東北地域の産業復興に貢献できる革新的プロデューサーの育成事業を開始いたします。



CONTENTS

地域の調査研究

- 地域産業復興調査研究プロジェクト
- 地域事業支援調査研究プロジェクト
- 地域発イノベーション調査研究プロジェクト
- 地域中小企業景況調査

地域の人材育成

- 地域イノベーションプロデューサー塾
- 農商工連携プロデューサー育成塾
- 社会イノベーター人材育成塾
- みやぎ県民大学

地域産業復興調査研究プロジェクト

本プロジェクトは、被災地の中心部である仙台市に立地する大学の研究者を中心に、東北地方の各大学、東北経済連合会、東北活性化研究センター、東北経済産業局、中小企業基盤整備機構、県・市町村（自治体）等との連携と協力のもと、中長期的な東北地域の産業復興に向けた東北地域全体の新たな産業配置や農林水産業などの革新的な産業政策の構想など、様々な学問的視点からの知見を総動員して地域産業復興の進捗状況や課題を調査分析し、被災地から情報発信していくことを目的とします。

また、これまでの価値前提から問い直し、長期に及ぶ復興過程に関わりながら、行政や民間とは異なる視点をもつた政策提言を行い、長期的に地域の課題解決に取り組みます。

本プロジェクトを構成する分科会、プロジェクト

主な分科会・プロジェクト名

産業分科会（農業、水産業、製造業、流通業、観光業など）

地域社会分科会（復興におけるNPOの活動、まちづくり、市民生活など）

マクロ経済把握分科会（東北地域の経済力分析、震災被害の経済分析、産業立地政策）

企業アンケート調査プロジェクト（被災地企業の復興進捗状況の把握）

海外調査プロジェクト（災害復興都市、再生エネルギー先進都市など）

その他

2012年度の主なイベント計画

開催予定日	内容
2012年10月	地域産業復興調査研究シンポジウム
2012年11月	みやぎ県民大学（調査研究成果の一般市民向け報告）
2013年3月	調査研究をまとめた書籍の出版
その他	定例会合、ワークショップ等の開催（月例もしくは随時）

震災復興研究センターの設置

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北を中心に多数の尊い人命を奪い、甚大な経済的被害をもたらし、とりわけ沿岸部の産業に壊滅的な打撃を与えるました。本研究科は被災地に立地する大学として、地域産業の復興プロセスに対して貢献をするのが使命であると考え、2011年4月に震災復興研究センターを設置しました。

2012年度は、研究科における上記の調査研究プロジェクトを実施するとともに、東北大が新設した災害科学国際研究所や学外の諸団体・学協会と連携した研究活動を進めます。



震災復興研究センター長
増田 聰 経済学研究科教授

2011年度の成果発表

地域産業復興調査研究シンポジウム 東日本大震災からの地域経済復興への提言－被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか－

日時：2011年10月1日（土）13:00～17:50

場所：東北大学経済学部

主催：地域イノベーション研究センター、震災復興研究センター

共催：財団法人経和会記念財団（経和会記念財団創設40周年記念）



「地域産業復興調査研究プロジェクト」を構成する5つの分科会が、半年間の研究成果を報告し、様々な学問領域からのアプローチによるバラエティ豊かな視点や側面からの成果報告となりました。

東日本大震災からの 地域経済復興への提言

〈第1巻〉

被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか
河北新報出版センター（2011年3月）

【主な内容】

地域経済復興のシナリオ

マクロ経済把握分科会

地域社会分科会

産業再生・創造のかたち

産業分科会：食産業チーム

観光チーム

ものづくりチーム

情報・通信チーム

流通チーム

雇用創造・企業再生のすがた

人材ビジネスインフラ分科会

金融ビジネスインフラ分科会

東日本大震災復興研究 I

東日本大震災からの 地域経済復興への提言

被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか

東北大学大学院経済学研究科
地域産業復興調査研究プロジェクト編

河北新報出版センター

地域の調査研究

地域の調査研究

地域発イノベーション調査研究プロジェクト

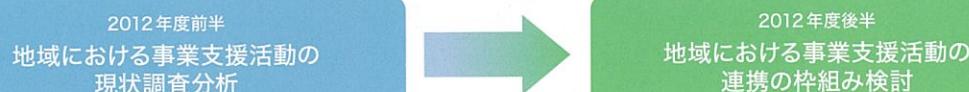
東日本大震災からの東北地域産業の復興は、経済の仕組みや政策などのソフトウェアを整備し、さらにそれらを活用してイノベーションを実現する挑戦者（イノベーター）の存在が不可欠ですが、これまで東北地方にはこのような挑戦者たちが少なく、ベンチャービジネスの不毛地帯であるとさえ言われてきました。

ところが実際は、東北地方には挑戦者たちによる隠れたイノベーションが数多く存在しています。では、なぜ、どのようにして、彼らはイノベーションを実現することができたのでしょうか。当センターでは、2011年度より財東北活性化研究センターと共に共同プロジェクトを結成し、こうした東北地域のイノベーターたちへのインタビューを中心にしてその軌跡と成功のポイントを調査しています。

地域事業支援調査研究プロジェクト

東北地域の事業支援に関する支援機関や産学官連携の仕組みは日々存在しますが、相互の連携が十分であるとはいません。各支援機関には、それぞれの得意分野があるため、支援者にとって最適な組み合わせが重要であると考えられます。この問題を解決するため、当センターでは財東北活性化研究センターと共に地域における事業支援の現状と今後のあり方を検討するためのプロジェクトを立ち上げました。

今後のスケジュール



アジェンダ	具体的な内容など
地域における 事業支援活動の 現状調査分析	<ul style="list-style-type: none">宮城県内および東北地域の産学官連携組織の現状と課題宮城県内および東北地域における事業資金などの支援活動の現状と課題地域の中小企業の事業支援ニーズ調査他地域における先進的事例
地域における 事業支援活動の 連携の枠組み検討	<ul style="list-style-type: none">支援組織、機関の連携のあり方プロジェクト支援のあり方人材育成と産学連携

地域中小企業景況調査

宮城県中小企業家同友会が会員企業を対象に行うアンケート調査に協力しています。年2回、会員企業の現在の経営状況および3ヶ月後の経営状況の予測について調査を行い、報告書を作成します。また、毎回の調査では、時期に合った特別テーマが設定され、地域中小企業の取り組みの現状と課題についても調査が行われます。

これまでの特別テーマ

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| ●2005年 上半期 会社の経営で問題となっていること | ●2009年 上半期 今後の景気回復の見通し |
| 下半期 会社の経営上の主要な取り組みの状況 | 下半期 自社の雇用情勢 |
| ●2006年 上半期 経営者として向上させたい能力 | ●2010年 上半期 資金繰り・資金調達 |
| 下半期 障害者雇用 | 下半期 人材育成 |
| ●2007年 上半期 後継者問題 | ●2011年 上半期 東日本大震災の影響 |
| 下半期 経営指針の作成および運営 | 下半期 東日本大震災の影響
(震災後9ヶ月を経過して) |
| ●2008年 上半期 原油・石油製品価格上昇の影響 | |
| 下半期 昨今の経済情勢の自社への影響 | |

2011年度の主な成果発表

2011年度地域イノベーション・シンポジウム 挑戦者たちが語る地域発イノベーション

日時：2012年3月17日（土） 13:30～17:30

場所：仙台国際センター

主催：地域イノベーション研究センター

財団法人東北活性化研究センター

「地域発イノベーション調査研究」の調査報告を行うとともに、イノベーションを創出された挑戦者の方とイノベーションを導く挑戦者の要件について議論しました。



地域発イノベーション（第1巻） 東北からの挑戦

河北新報出版センター（2011年3月）

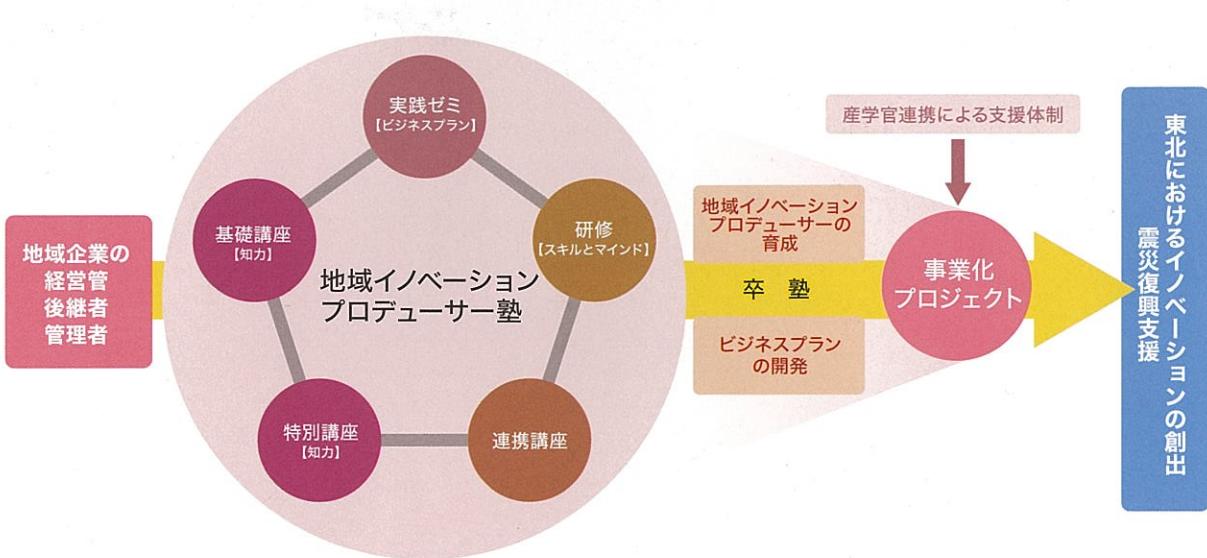
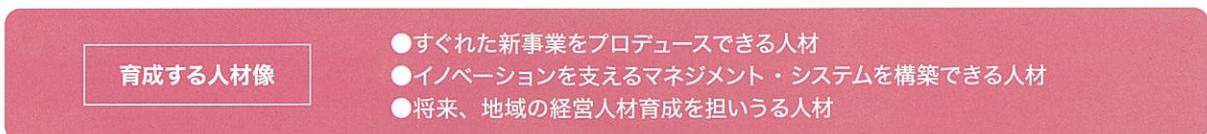
【2011年度の調査企業と内容】

- | | |
|-------------------|---|
| ● 株式会社 舞台ファーム | … 農家が主導する農産物の流通・加工イノベーション |
| ● 有限会社 伊豆沼農産 | … 地域とともに新しい農村産業を創造し続ける |
| ● 株式会社 ジェイファーム | … 家族経営の農業の新たな可能性を開拓した先駆者 |
| ● 山本電気株式会社 | … モータ製造メーカーによる調理家電事業の創造 |
| ● 東洋システム株式会社 | … 電池評価装置のシェア世界一の東北発中小企業 |
| ● 株式会社 ハニーズ | … ファッション性と低コストの両立の追求 |
| ● 株式会社 Don Don up | … 「経験智」から生み出された独創的なビジネスモデルによるイノベーション |
| ● 株式会社 ウジエスパー | … 複数課題を同時解決しながら大手との差別化を図る地方スーパーの経営イノベーション |
| ● エヌ・エム・アイグループ | … 薬局が主導する新しい地域医療の形 |
| ● 株式会社 小島洋酒店 | … 産学連携による「おらほ」のブランド創出物語 |
| ● 株式会社 清月記 | … 葬儀ビジネスの本質を追求する |

地域イノベーションプロデューサー塾

地域イノベーションプロデューサー塾は、地域企業(特に中小企業)の経営者と管理者を対象として、地域ならではのイノベーションを創出し、新たな雇用機会を創出し産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成する事業です。この構想の実効性を高めるために、地域の関係機関と連携して構想の具体的な内容づくりに取り組んでいます。2013年度の本格的な開塾に先立って、本年度は試行的に開講されます。

- すぐれた新事業をプロデュースするために必要な知力、スキル、マインドを高めます。
- 経験豊かな事業開発の専門家が塾生一人ひとりのビジネスプランづくりを指導します。
- ビジネスプランを事業化することを支援する体制を構築します。



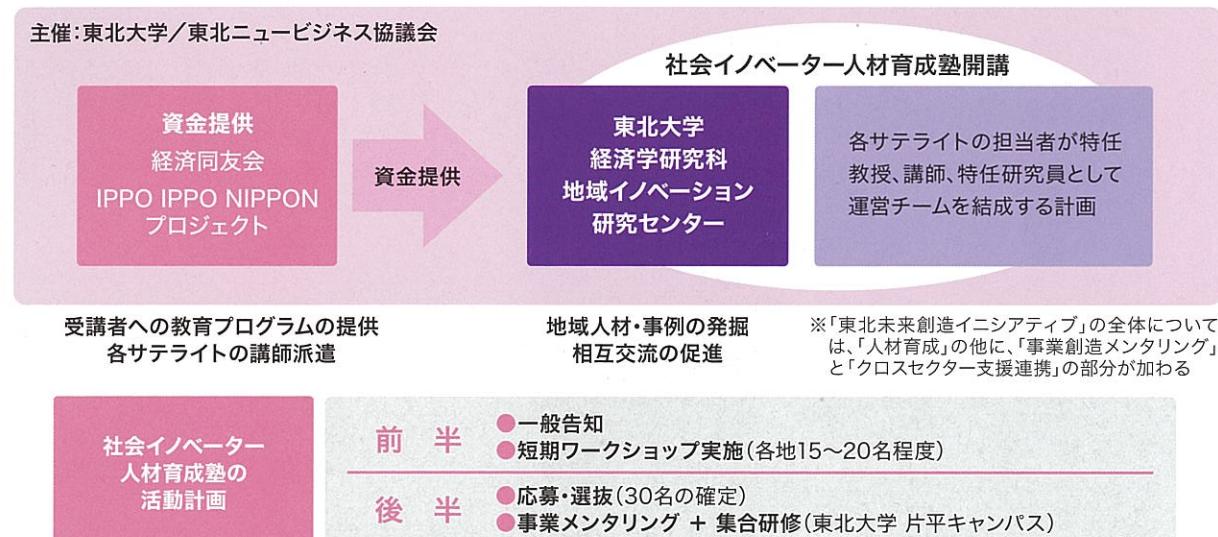
区分	目的	回数	主な学習方法等(講師陣)
基礎講座	イノベーションを推進する基盤となる組織・人材・業務システムのマネジメントを強化するための経営学知識を学習する。	28回	講義とディスカッション (東北大大学教員、外部講師)
特別講座	ビジネスプラン、イノベーション、マネジメント、海外市場などについて特別に設定した多様なテーマについて学習する。	12回	講義、セミナー (テーマごとの外部講師)
研修	問題解決、コミュニケーション、仮説検証など、イノベーションをプロデュースするためのスキルとマインドを習得する。	5回	ロールプレイングや行動変革など (外部研修機関のトレーナー)
実践ゼミ	少人数のゼミ形式で、ビジネスプランづくりを体系的に指導する。将来的には卒塾者との交流の場とする。	15回	個別指導、事例学習 (事業開発の専門家)
連携講座	震災復興プロジェクトと連携して開催される「みやぎ県民大学」(公開講座)を通じて震災復興について学習する。	4回	塾の特別講座として位置づける (震災復興プロジェクトの研究者)

社会イノベーター人材育成塾

東日本大震災後の東北には、あまりに多くの課題が存在します。しかし、そうした課題の多くは、震災以前から東北、さらには日本が抱えていたもので、単に現状を復旧するだけでは、東北の未来は開けません。

社会イノベーター育成塾は、こうした社会のイノベーションを自らの手と行動で生み出し、東北を再生し、日本の新しい未来を東北の地から作り出さんという挑戦者を育成し支援する、人材育成・事業創造の取り組みです。

当センターでは、東北ニュービジネス協議会との共催によって、岩手・宮城・福島の被災地の現場で地域を支える団体や組織と協力し合い、人材育成・事業創造のメンタリング、企業・行政・市民セクター・大学のノウハウやリソース、ネットワークを総動員するクロスセクターでの協働を開拓します。



2012年度の人材育成に関する2つの塾の相違について

2012年度は、地域企業の革新的リーダー育成のための「地域イノベーションプロデューサー塾」の他に、直接被災地における社会的起業家を育成・支援するための「社会イノベーター人材育成塾」(共催…東北ニュービジネス協議会)も開催いたします。

	地域イノベーションプロデューサー塾	社会イノベーター人材育成塾
基盤事業	地域産業復興支援事業	東北未来創造イニシアティブ
目的	新たな雇用機会を創出し東北地域の産業・社会の復興に貢献するイノベーションを誘発する革新的なプロデューサーの育成と支援 ※雇用創造に繋がるビジネスを中心としたイノベーション	被災3県のコミュニティ、地域が直面する課題を解決し、地域を再生し新たな経済社会の実現を先導できる人材の育成と支援 ※企業、行政、市民セクター、大学の垣根を越えたクロスセクターでのイノベーション
主な対象	地域企業の経営者・後継者および管理者など:年間30名 ※2012年度は15名程度	企業、行政、NPO法人などの社会的起業家(ソーシャルイノベーター):30名程度
主な活動領域	東北6県の県庁所在地 ※当面は宮城県仙台市	直接被災地(岩手県釜石、宮城県気仙沼・石巻・仙台、福島県福島)
事業期間	2012年度より継続	2012年度
事業運営組織	協力:財団法人東北活性化研究センターほか	共催:社団法人東北ニュービジネス協議会ほか 協力:ISL社会イノベーションセンターほか
事業活動資金	文部科学省特別予算(復興特別会計) ※2012年度より5年間	経済同友会 (IPPO IPPON NIPPONプロジェクト)

地域の人材育成

農商工連携プロデューサー育成塾

東日本大震災では東北地域の農業にも大きな被害を受けましたが、農業と商業と工業を連携させて新たな付加価値を生み出す農業のあり方が問われています。そこで農商工連携の中核となる経営者や支援者を育成するために平成21年度から実践型研修プログラムを実施してきました。既に、第1期22名、第2期18名、第3期14名が修了し、農商工連携プロデューサーとして各地域で活躍しています。

この育成塾は農商工連携先進事例の実習・事例研究とワークショップなどでカリキュラムが構成されています。

先進事例実習・事例研究（現地での1泊2日）

- 有伊豆沼農産（1次産業が中心となる農商工連携）
- 株一の蔵（2次産業が中心となる農商工連携）
- 道の駅「上品の郷」（3次産業が中心となる農商工連携）
- 株大場組（建設業の農業参入と農商工連携）
- 東鳴子温泉（観光と農商工の連携）

※各実習の二日目午後は、事例内容についてより理解を深めて実践につなげるためのディスカッションを実施



ワークショップ（仙台市内で実施）

- 実習や事例研究等の成果を高めるために、学んだこと・気づいたことを、地域や職場で実践しながら能力として身につける「アクションラーニング」を効果的に行うためのワークショップを実施



みやぎ県民大学

宮城県の委託事業として、地域中小企業のイノベーション能力の向上を図るための開放講座を開講し、多くの受講者から高い評価を受けました。

今年度の計画とこれまでの実績

2012年度 予定

●東日本大震災からの復興：現状と課題 2012年11月開講予定

東日本大震災から早1年以上が過ぎましたが、復興のプロセスはまだ途上にあります。本講義では被災地の現状を概観しつつ、ヒト、モノ、カネの側面から復興の現状と課題をお話し、皆さんと一緒に復興を考えていきたいと思います。

第1回 11月8日(木) 18:00~20:00

東日本大震災の被害と復興過程：概観 増田聰 教授

第2回 11月15日(木) 18:00~20:00

被災地金融の現状と課題 西山慎一 准教授

第3回 11月22日(木) 18:00~20:00

空間経済学と東日本大震災：企業間ネットワークの観点からの定量的解釈

中島賢太郎 准教授

第4回 11月29日(木) 18:00~20:00

被災地における企業家精神 福島路 教授



2011年度 実績

●大学院で教える「管理者の役割とリーダーシップ」 58名受講

講述とグループ討議を組み合わせて、4回の講義を実施しました。

講師 藤本雅彦 教授

第1回 今日の管理者の役割

第2回 職場の活性化と部下の動機づけ

第3回 部下の育成

第4回 今日のリーダーシップ



センター略史

2007年以前の略史については、当センターホームページをご覧ください。

年度 月

- 2008 5 第1回プロデューサー塾の開催／とうほく学生フォーラム2008～地域を変える若者の力への開催
6 第2回プロデューサー塾の開催
7 第3回プロデューサー塾の開催／中小企業政策特別セミナー「大学発ベンチャー：韓・日比較研究」の開催／第7回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施
8-10 第5期プロジェクト型長期インターンシップ・プログラムの実施
9 公開講座「イノベーション・カレッジ2008」の開催(宮城県、山形県、青森県)
10 地域イノベーション・シンポジウム「ものづくりだけで生き残れるか？～製造業のサービス化」の開催／連携講座(公開講座)「東北地域の中小企業経営と地域活性化」の開講(～2009.01)／第4回プロデューサー塾の開催／特別セミナー「地域革新システム構築のための産学協力活性化方案」の開催／「東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアム」への参加
11 第5回プロデューサー塾の開催
12 第6回プロデューサー塾の開催／第8回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施／第1回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
13 第2回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
- 2009 5 第1回インターンシップ事前研修の実施／第7回プロデューサー塾の開催
6 第8回プロデューサー塾の開催／農商工連携プロデューサー育成塾の開講／第2回インターンシップ事前研修の実施／2009年度 東北大学経済学会講演会の共催
7 第9回プロデューサー塾の開催／第9回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施／オープン・キャンパスにおけるパネル展示
8 第3回インターンシップ事前研修の実施／仙台市政策研究員事業の開始(政策研究員委嘱式)
9 公開講座「イノベーション・カレッジ2009」の開催(宮城県、福島県、秋田県)
10 連携講座(公開講座)「東北地域の中小企業経営と地域活性化」の開講(～2010.01)／テクノフェアはなまき2009「農商工連携フォーラム」参加／第10回プロデューサー塾の開催
11 第11回プロデューサー塾の開催／農商工連携プロデューサー育成塾 第1期生修了式
12 第12回プロデューサー塾の開催／第10回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施
13 東北大学経済学部創設60周年記念シンポジウム「デザイン発想からの新しい経営」の開催
14 フォーラム「持続的な農商工連携のために」の開催／仙台市政策研究員最終報告会(仙台市長への報告会)／第1回中国ビジネス研究会の開催

年度 月

- 2010 5 第2回中国ビジネス研究会の開催／第13回プロデューサー塾の開催
6 第14回プロデューサー塾の開催／第1回インターンシップ事前研修の実施
7 第2回、第3回インターンシップ事前研修の実施／第15回プロデューサー塾の開催／第11回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施／定禪寺ストリートジャズフェスティバル シンポジウム「市民がつくる音楽祭」の共催／オープン・キャンパスにおける紹介
8 共同研究プロジェクトの実施(～2011.2)／第3回中国ビジネス研究会の開催／第2期農商工連携プロデューサー育成塾の開講／社会イノベーター公志園東北大会の共催
9 公開講座「イノベーション・カレッジ2010」の開催(岩手県、新潟県)
10 公開講座「イノベーション・カレッジ2010」の開催(宮城県)／第16回プロデューサー塾の開催／第4回中国ビジネス研究会の開催／「東北大大学イノベーションフェア2010in仙台」への出展
11 第17回プロデューサー塾の開催
12 第12回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施／日英研究連携プロジェクト2010「サードセクターと行政の協働」仙台講演会の共催
13 第18回プロデューサー塾の開催／農商工連携プロデューサー育成塾 第2期生修了式
14 2010年度地域イノベーション・シンポジウム「このままいいのか？東北における人材育成」の開催
- 2011 4 震災復興研究センター設置／地域産業復興調査研究プロジェクト発足
6 共同研究プロジェクトの実施(～2012.3)／日本ベンチャー学会「震災復興に向けた投資ファンドの現状と課題」セミナーの共催
7 オープン・キャンパスにおける紹介／第13回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施
8 第3期農商工連携プロデューサー育成塾の開講
9 地域産業復興調査研究プロジェクトシナリオ・プランニングの実施／みやぎ県民大学開放講座の実施
10 地域産業復興調査研究シンポジウム「東日本大震災からの地域経済復興への提言—被災地の大学として何を学び、伝え、創るのかー」の開催
11 第19回プロデューサー塾の開催／第20回プロデューサー塾の開催
12 日本都市計画学会東北支部主催「津波防災まちづくり法勉強会」の共催／日本建築学会会誌編集委員会主催パネルディスカッション「リジリエント・ソサエティー」の共催／第21回プロデューサー塾の開催
13 第14回宮城県中小企業家同友会景気の状況に関するアンケート調査の実施
14 第3期農商工連携プロデューサー育成塾 修了式
15 2011年度地域イノベーション・シンポジウム「挑戦者たちが語る地域発イノベーション」の開催

交通アクセス

▶周辺図



▶片平キャンパス構内図

東北大學大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター



仙台市営バス

仙台駅前11番のりばより
靈屋橋・動物公園経由緑ヶ丘三丁目行／靈屋橋・動物公園・日赤病院
経由八木山南団地行 乗車
東北大正門前バス停下車（約10分、180円）

仙台駅前12番のりばより

靈屋橋・動物公園・西の平経由 長町南駅・長町(宮)行
東北大正門前バス停下車（約10分、180円）

タクシー

仙台駅西口から約10分

連絡先

東北大學大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
エクステンション教育研究棟6階
電話. 022-217-6265 FAX. 022-217-6266
E-mail rirc@econ.tohoku.ac.jp
Homepage <http://www.econ.tohoku.ac.jp/rirc/>

**Regional Innovation Research Center
Graduate School of Economics and Management
Tohoku University**
katahira 2-1-1, Aoba-ku, Sendai



この印刷物は、
輸送マイルage低減によるCO2削減や
地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した
新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、
印刷用紙へのリサイクルが可能です。